

道徳科学習指導案

2019年10月3日(木)

1. 道徳科部会の重点

- 自己を見つめられる指導過程
- 授業内、授業後の見取りの工夫、記録⇒評価⇒改善
- 他者の意見を聞き、多面的・多角的に考える力の育成

2. 主題名

『心のつながりの深さ』【内容項目B-6 思いやり、感謝】 資料：「足袋の季節」(教育出版)

3. 本時のねらい

『あばあさん』と『私』の人物像や関係性について考えることを通し、人々が心のつながりをもって生きていく為に基盤になるであろう思いやりや感謝について考え、他者とのつながりを大切にしようとする道徳的心情を養う。

4. 指導観

(1) 主題について

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 【B-6 思いやり、感謝】

『思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。』

中学校の段階では、単に思いやりや感謝が大切であることだけでなく、相手の立場や気持ちに対する配慮、そして、感謝の対象の広がりについても理解を深めていくことが大切である。入学して間もない時期には、人間愛に基づく他者との関わりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。しかし、人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境と合わせて、温かい人間愛に恵まれないと感じて、人はとかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合がある。学年が上がるにつれて、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気付く一方で、家族など日常的に接している人々に対し、支えられていることを有り難いと思いつつも、疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりしている。特に、自分の存在に深く関わることになると言葉や行動としてうまく思いやりや感謝の気持ちを表現できないこともある。

人間がこの地球上で集団生活を送っていくためには、相互に支え合うつながりをもって生きていく必要があり、一人ひとりが利己的でも利他的でもなく、相利的な思想や行動をとっていかなければならない。その為には、他人に支えられていることに感謝し、自分自身の弱さや醜さを捉えた上で他人の状況や心情を相手の立場に立って読み取ろうとし、思いやりをもった言動を行うという正のスパイラルが成り立つことが理想ではないだろうか。

本時では、「思いやり・感謝」の項目に特化というよりも、それを中心にして広く「心のつながりの深さ」をテーマにした人間愛について考える展開としたい。その際、Bの視点だけではなく、A・C・Dの視点に関連した考えや意見が表出することも考えられるが、それらも受容しながら本時のねらいを軸として授業を展開したい。

(2) 生徒の実態について

【削除】

(3) 資料について

筆者が少年の頃、貧しさと寒さに追いつめられ、大福売りのおばあさんから、釣り銭をかすめ取り、足袋の代金にしてしまう。おばあさんの「ふんばりなさいよ」の一言が、足袋を手に入れることしか頭になかった筆者の心を大きく揺さぶる。その後、自責の念に駆られた筆者は初めて月給をもらっておばあさんに償いをしようと訪ねるが、そのおばあさんは既に亡くなっていた。

後悔や無念さだけでなく、それを素直に受け止め自分も誰かに対して思いやりを持って行動していこうという「私」の人物像と「私」を変えるきっかけとなったおばあさんの人物像から、人々は支え合いながら生活し、誰かとつながりながら生きていくという事を考えることができる資料である。

(4) 指導について

本時では以下の点に留意して、授業を構築し展開していく。

①指導過程の工夫

本時の主内容項目は B-6「思いやり、感謝」であるが、資料の特徴として様々な内容項目との関連が考えられる。話の論点が多方向に分散しないように、どの活動・発問においても授業を通した軸やねらいを常に教員が持つておかなければならない。本時では、内包される内容項目として「Cの視点」や「Dの視点」が関連してくると考えられる。「思いやり、感謝」を軸としながら、様々な道徳的価値を内包する人間愛について考える授業としたい。

②発言を分類し板書する工夫

「心のつながりの深さ」を段階に分けて記載することにより、板書において多岐にわたる道徳的価値が分散し、授業テーマとのつながりが理解しにくくならないよう留意する。また、枠取りや矢印などを活用することで、誰に対する思いなのかを明確にする。さらに、互いの気持ちやつながりの深さに対するズレなども板書において明確化されるよう留意する。

③ワークシートの工夫※評価との関連

自由記述できるように罫線だけ書かれたワークシートを使用する。道徳の授業は生ものであり、その都度修正を加えながら授業を進行していくものだと考えている。その為、生徒の考えや発言から作られる流れに沿って発問の言葉遣いが少々変わる可能性もあり、それに対応させる必要があり、あらかじめ発問を記入しない形式をとっている。

また、すべての意見を自由記述するのではなく、ねらいに即した評価の見取りをする場面に限定して記述をさせる。そうすることで、ポートフォリオ形式で管理した際に、生徒の考えを見取ることができ、変容を読み取ることもできるのではないかと考えている。合わせて、〈他の人の良いなと思った発言〉を記述する欄を設定することで、評価の視点である【一面的な見方から多面的多角的な見方への発展】を見取ることができると考えている。

道徳科授業では毎時間ワークシートを使用している。ワークシートには必ず自己評価欄を設け、毎授業で記載させている。生徒は自己を振り返る機会にもなり、授業者は生徒の授業への感じ方を見取るともでき、教員の授業評価にも繋げることができる。

④感想記入の工夫※評価との関連

感想を記入させる際に、授業のテーマに沿った視点を与えることで、生徒は授業を多角的に振り返りながら、深めた考えや対立的な考え、変容した考えなど授業を自己の中で整理しながら納得解を見つける時間となるのではないかと考える。また、自分自身の生活との関わりについての視点を与えることで、【道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか】という評価の視点

とも結びつけて見取ることができると考えている。

5. 本時案

	学習内容・学習活動 予想される生徒の発言	指導上の留意点	◇学習評価・方法 ▲努力を要すると判断される生徒への手立て
導入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 心のつながりの深さには違いがあるのだろうか？ </div> <p>○本時のテーマが「心のつながりの深さ」であることを理解し、身近な人との心のつながりを想起し、深さについて考える。(5分)【価値についての一面の確立】</p> <p>○資料に関わっての用語などを確認する。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 登場する二人の心のつながりは深いのだろうか？ </div> <p>○資料を読む。(資料6分) 【資料内での一面の確立】</p>	<p>□心のつながりの深さ具合を浅い順にレベル1～3の3段階に分け、想起した人物がどの段階かを考えさせる事で、本時を通して考える道徳的価値について疑問や方向性をもたせる。</p> <p>□資料を円滑に読み取ることができるように、時代による貨幣価値の違いや用語について説明する。</p> <p>□ねらいをもって資料を読むことができるように、範読前に補助発問を行う。</p>	

展開	二人の心のつながりの深さはどれくらいだろう？	<input type="checkbox"/> 資料の内容を整理しながら、登場人物のつながりの深さを考えることを通して、互いへの思いとつながりの深さの関係や、ズレなどについて考える。 (15分)【資料内での多面的な構造化】	<input type="checkbox"/> 『おばあさん』⇒『私』、『私』⇒『おばあさん』の双方へのつながりの深さに分類し考えさせる。 <input type="checkbox"/> 三段階から選択させ、理由と合わせてワークシートに記入させる。	▲理由を考えることが難しい生徒には、まずレベルの分類だけをするよう指示をだし、その後の交流場面で考えを深めさせる。
	おばあさん⇒私 レベル1～あまり『私』の事を考えていないと思う。 レベル2～『私』がかわいそうだと思って助けてあげようと思った。 レベル3～『私』の将来の事をおもいやり、このような態度をとったと思う。 私⇒おばあさん レベル1～一回しか会っていない人とのつながりはあまりないと思う。 レベル2～『おばあさん』の本当の気持ちには気づいていないと思う。 レベル3～『おばあさん』への感謝の思いを、今後もずっと大切にしていこうと思うから。	中心発問 心のつながりが深いとはどういうことだろう？		
	<input type="checkbox"/> 「思いやり・感謝」を基盤とした、心のつながりの深さ、浅さについて考える。 (15分)【価値についての多面的な構造化】	<input type="checkbox"/> 資料内で三段階に分類した心のつながりの深さを一般化させ、自分なりの定義づけを考える。 <input type="checkbox"/> ワークシートに記入させる。 <input type="checkbox"/> ペア交流→全体交流	◇多面的に「思いやり・感謝」を基盤とした「人間愛」について多面的に考えることができているか。 <発言・ワークシート> 【多面的・多角的な見方への発展】 ▲ペア交流などの時間を設定し、現在考えている道徳的価値を捉え、自分の考えを言葉にし、整理させる。	
まとめ	身のまわりの人とのつながりはどのように考えていけばよいのだろう？	<input type="checkbox"/> 身近な人とつながって生活する上で大切であろう考え方や気持ちなどについて考える。(感想も含む) (6分)【価値についての多角的な振り返り】	<input type="checkbox"/> ワークシートに記入させる。 <input type="checkbox"/> 経過時間により、全体発表かペア発表、後日通信などを使つての発表なのかを判断する。	◇本時を振り返り、自分自身と他者との関わりについて多角的に考えることができているか。 <発言・ワークシート> 【自分自身との関わりでの深まり】 ▲困っている人が居たらどうするか、困る人が出ないように生活するにはどうするか、など具体的な場面を想起しやすい発問を行う。
	◆感謝に関連して ・人を妬んだり恨んだりするのではなく、お互いにどんな相手に対しても感謝して生活することが大切。 ◆思いやりに関連して ・相手の立場や気持ちを理解しようとして、相手に合わせた対応をすることが必要。	他視点の可能性 ◆その他Bの視点に関連して ・お互いの違いを理解して、それを寛容に受け入れ合って生活することが大切。 ◆Cの視点に関連して ・ルールやマナーをお互いが守り、社会全体が支え合えるような雰囲気づくりが必要。 ・まずは家族や学校の人たちと支え合えるように意識して生活することが大切。 ◆Dの視点に関連して ・一人ひとりが自分の弱い部分を認めて、反省しながら生活することが必要。		